

日刊動労千葉

81.11.14

No.895

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（日）七二二〇七

二期着工を阻止しよう

反対同盟の決意②

日帝II鈴木体制は、軍事大国化・改憲にむけた反動攻勢の最基軸である三里塚二期工事着工を、年度内にも開始しようとしている。「二期工事」―それは三里塚・芝山農民が戦中・戦後、あるいは戦前おじいさんおばあさんの代から日に夜を継ぎ血のじむ苦勞に苦勞の上きり拓き育ててきた農地をブルデフみつぶしコンクリートの下に埋め、用地内十五家族、親・子・孫・ひ孫全てを国家権力にものをいわせ機動隊の暴力で引きつり出し、住屋を押しつぶしブッコわし追い払ってゆく残忍この上ない攻撃だ。「国家のためだ、国際空港だ」といえば何でも押し通せると思つたら大まちがいだ！こんな事が許せる訳がない。現地では日々緊迫の度を加え、反対同盟農民はすでに「二期実力阻止・徹底抗戦」の臨戦態勢に突入している。

このようなか中で、来たる十一月二十九日、三里塚現地闘争がもたれる。動労千葉は、反対同盟農民の決意に応え、全国の闘う仲間との連帯の輪をどんどん広げ、とりわけ「三里塚を闘う労働運動」の全国潮流を拡大・強化し、二期決戦に必らず勝利する。八九一号にひき続き「10・11三里塚全国総決起集会」で、反対同盟農民の発言、決意を掲載します。



二期工事阻止のとりでを
反対同盟行動隊長
内田寛一さん

さる五月の総決起集会の際に、この場で本年後半から来春にかけて、二期着工攻撃がかかってくるだろう、われわれはこれを断固として粉碎しなければならぬという固い約束をし、十・十一闘争を提起し、皆さんと共に本日（十月十一日）の闘いをかちとっている。

ご承知のように、七月の塩川一沼田会談を契機として、二期着工にむけた攻撃が熾烈に開始されており、情勢はきわめて緊迫の度を加えている。

私たちはこの10・11の集会において、より多くの同志の結集を得、この巨大な本集会をもって二期工事阻止の砦とし、これからますます輪をひろげ、団結を固めて勝利するまでたたかいぬいてゆきたい。

民衆の力で権力倒し、

平和な社

会を創れ

東峰部落

島村良助さん



かつて、あの大東亜戦争において、世界人類の中で原爆の悲惨さをあじわったのは、日本国民だけだ。憲法が制定された日本は軍隊をもたない、非核三原則を守ると唱えた。ところがこの三十五年間の

自民政権下で、世界百五十カ国の中で第何位とまでいわれる強大な軍隊が造られている。そしてまた再び国民を戦争に導こうとしている。

人民の力によって、民衆の力によって今の議会をくつがえす闘いをたたかいぬこうではありませんか。

三里塚は軍事空港です。なんとしてもこの空港を廃港にもっていく。そして平和な社会を創りあげなければならぬ。その隊列の先頭にたつて必勝を信じながら、ともに闘いぬこうではないか。



滑走路をつくらせてはならない
天神峰部落
石毛常吉さん

いま、世界の情勢・国内の情勢を見ますと、軍事大国化と改憲にむかい、防衛予算が増大している。これは絶対に許せない。私は三十二年前、徴兵された経験にたつて、いま再び徴兵制がしかれ、戦争に進もうとしていると会場にいる全国の青年男女に訴える。

平和を守るためにも、三里塚の三千五百メートルと木の根の横風用の二本の滑走路を作らせてはなりません。私は最後まで闘う。



不当検問に敗
けずがんばる
木の根部落
小川篤子さん

私の家は昨年までは、腰までつかるような



深い田んぼでしたが、たたかう農業の一環として昨年行われた基盤整備のおかげで、今年は大きな台風がきて稲が倒れたにもかかわらず、心配された収量もかなり良く、昨年を上廻りました。

こういう風にして、たたかう農業をどんどん続けていけば、自信をもって闘い続けていけると思います。毎日、家の周りで、子供たちの通学・通園のときでさえ機動隊の検問や監視が続いて、すごいいやがらせの中での生活ですが、そんなことに負けないで、木の根の風車も回っていることですから、頑張っていきたい。

不動の信念で、

揺らぐことなく

最後まで闘う



天神峰部落
小川喜平さん

過去十六年間、この日月を無駄にすることなく、常に、初心にかえった信念で闘いぬく。ことわざに、「人間の信念というのは鬼の毛ほども揺らいではならない」というのがある。私も不動の信念で、揺らぐことなく最後までたたかいぬく。